

円満寺だより

令和六年 さくら号

住職法談

みなさん教誨師という活動をご存じですか。私は、前住職の後を継いで、平成十五年から月に一度山形刑務所に行って、受刑者に宗教教誨を行っています。宗教教誨とは、悔いを改め正しい道へ導くために、施設内で行う宗教活動のことです。教誨師は、新興宗教を除いて伝統的な神道、キリスト教、仏教ほか様々な宗教団体から選出されています。

教誨活動は、憲法の「信教の自由」を保障することに則り、受刑者が希望する教誨に参加することができま。教誨時間は、約一時間です。内容は、初めに真言宗の勤行式を受刑者と一緒にお唱えし、終わって勤行式の内容を解説し、次に季節の話題や世の中の時事に関することなどの話をします。

受刑者のほとんどは、社会に復帰しても周囲の視線が気になり、なじめず転職をくりかえすことが報告されています。刑を終えても自身の後ろめたさが付きまとい、周囲との調和がとれず、やめてしまうという悪循環があるようです。

あるとき、社会復帰した方が書かれた「これが私の一生の仕事」という作文を目にすることがありました。その方も上述の悪循環に陥ってしまい、苦しんでいたのですが、受刑者復帰支援事業所の社長から声を掛けられ、その仕事を通して感謝を知るエピソードです。

仕事はゴミ清掃で、仲間と車でゴミを集めていると、学校へ通う児童やおばさんからあいさつや感謝の言葉を掛けられるようになります。それまでの人生で、周りの人から感謝の言葉をもらうことはほとんどなかったけれど、一見嫌な仕事でも誰かがやることで、助かっている人がいる。かけられた感謝の言葉を通して、この仕事こそ私の一生の仕事と思えてきた。この仕事も、始めはなじめなかったが、同僚の暖かな言葉に勇気づけられ、そして我慢して使ってくれた社長のおかげで続けられた。すべて

に「感謝」の気持ちをもって、一生懸命働いていきたいという作文でした。

この作文を読みながら、何度も出てくるのが感謝の気持ちでした。感謝を伝える「ありがとう」は幸せを呼ぶ魔法の言葉と言われています。「ありがとう」と言われて嫌な気分になる人は少ないでしょう。この言葉には、相手を敬う姿勢や謙虚さが含まれています。この謙虚さが対話を生みま。トラブルの原因も多くは対話の不足によるものでしょう。対話する能力は生きていくうえでとても大切です。

今回の春のお彼岸中に教誨活動がありました。この彼岸は、季節の転回による修行の始まりを意味します。修行は一生続きます。修行の積み重ねによって仏の徳を得ることを目指すわけですが、そもそも他人の徳に自分が感謝の気持ちをもてば、相手を仏にすることができ。仏自身と、仏を生ま出す人、どちらが偉大でしょうか。このことを思う時、自然と有難い世界に導かれます。私たちは幸いに罪を犯さずに、生かされています。そのことにまず感謝したいと思います。

円満寺の歴史

本年は円満寺がこの新庄の地に開山されてから四〇〇年の慶賀の年を迎えました。一方、円満寺の歴史はさらに遡ることができず。その概略を少しご紹介いたします。

小杉山吉祥院円満寺の創建は大同2年（八〇七）、坂上田村麻呂が開いたのが始まりと伝えられています。当初は現在の秋田県大仙市小杉山に境内を構えた天台宗の寺院で慈覚大師作と伝わる十一面観音を本尊とされていました。中世に入ると現在の秋田県仙北市角館町を本拠に周辺を支配していた戸沢氏の庇護を受け、寺領500石が配されていました。また、当主を務めた戸沢盛安の兄である堂珍房（戸沢盛重）が円満寺の住職を務めるなど戸沢氏との関係が深い祈願所となつていきます。

慶長5年（一六〇〇）の関ヶ原の戦いの結果、戸沢氏は角館から常陸松岡藩（茨城県高萩市）4万石に移封となり、元和8年（一六二二）に松岡藩から新庄藩6万石に移封となります。そして、寛永元年（一六二四）、当時の藩主戸沢政盛公の兄にあた

る甚盛上人を初代住職として、新庄城の鬼門を封ずる地に円満寺を建立しました。そして、新庄藩歴代藩主の祈願所として明治維新まで続きました。

明治には神仏分離令を始めとした政府による廃仏政策がすすめられたことはよく知られています。明治維新の混乱以降、諸外国と渡り合うための精神的統治策として、国家神道が推し出されるようになったのです。庶民の間で、神道と仏教が明確に分けられるようになったのがこの時代からなのです。とくに神仏習合の色合いが濃かった真言宗のお寺は、廃寺や統合を余儀なくされ、最上郡に十ヶ寺以上あった真言宗寺院もその時ほとんど取り潰しとなってしまいました。辛うじて残された円満寺は、真言宗の法とともに神仏習合の文化を今に伝える場所として、何とか信仰が維持されてきました。今後も日本古来の精神を伝える場所として残されていくよう願うばかりです。



初縁日おさいど

二月十八日、初縁日のご祈祷とおさいどが無事執り行われました。当日は、とても暖かい日差しに恵まれ、境内の雪もすっかり溶けてしまいました。一方で、茅屋根への飛び火が心配で、事前に屋根に放水し湿らせた状態で、火入れを行いました。風もなく火柱も真直ぐと伸び、多くの方に見守っていたきながら古い札を焼納することが出来ました。毎年、常中消防団の皆様にはご協力いただき感謝申し上げます。

春めいた二月から一変して、三月に入り大雪が降り、暴風に見舞われ、心配の種が尽きません。暖かな春が待ち遠しいです。

お彼岸の中日

三月二十日、例年の通りお彼岸の中日に円満寺檀家総会を行いました。法要のあと総会を開き、令和五年の報告と開山四〇〇年事業について承認を頂きました。

お彼岸は春分の日と秋分の日を中心として前後三日間を合わせた一週間を指します。春彼岸の中日である春分の日のご存じのとおり、昼と夜の長さが等しくなるので、お

釈迦さまの大切な教えである「中道」を表すとされます。また、季節が移り転じる日でもあることから、迷いの世界である「彼岸」から悟りの世界である「彼岸」へと転じる修行の期間とされてきました。このことからお彼岸に読経を行い、それと合わせて先祖の遺徳を偲ぶ日ともなったのでしょう。

もちろんお彼岸にだけ悟りの世界が現れるわけではなく、春分秋分の日の特徴をもとに、昔の熱心な方々が縁起を担いできた結果うまれた行事なわけです。あらゆる行事や慣習というものは、何らかの事象から縁起を担ぎ、願いを表現する機会と言ってもよいでしょう。しかし、長い年月がたつと縁起を担いでいたはずが、縁起に担がれ、縛られてしまうということもあります。なるべくならば縁起に担がれるのではなく、縁起を担げるようになりたい。今まではそう思っていました。しかし一方で、縁起に担がれていくしかないのが人生の真相なようです。担いでいるつもりが担がれていた。その不思議さに宗教の本質がある気がしています。

稚児行列について

四〇〇年記念行事の一つとして、稚児行列を開催いたします。稚児行列とは、子どもが昔ながらの衣装を着飾り、街を練り歩く行事です。これまでの子供の成長を祝い、益々の健勝と活躍を祈ります。

・仮のスケジュール

五月十二日（日）

八時半 はぐくみ保育園 集合

十時 はぐくみ保育園 出発

十一時 円満寺 到着 稚児加持

お餅供養や記念品授与ののち解散

・稚児募集対象 三歳から小学六年生まで

・参加費 一人 六千円

・募集人数 三十名



秋の三山参拝旅行

今年の秋、記念事業の一環として、真言宗智山派の三つの大本山への参拝旅行を企画しております。成田山新勝寺、川崎大師平間寺、高尾山薬王院は全国でも有数の参拝者数を誇る大寺院です。それぞれの本山で護摩祈祷に参列してお札をいただき、にぎわう参道を楽しむ予定です。これを機にぜひ一緒に参拝に行ってみませんか？

日時 令和六年秋（九月または十月ごろ）

二泊三日 予定

最低催行人員 十五名

旅費 一人 六万円～八万円

上 成田山 下 高尾山



花まつり灌仏会

四月八日はお釈迦様の誕生日とされています。お釈迦様が生まれた時、天から甘露の雨と花が降ったという故事にちなみ、花でお飾りした花御堂にお釈迦様の尊像を安置し、尊像に甘茶をかける風習が仏教各宗で伝わってきました。円満寺では四月中に本堂にて灌仏（尊像に甘茶をかけること）ができます。灌仏していただいた方には、甘茶の供養も行っています。皆様のご参拝お待ちしております。

また四月二十一日には紙の花を散らす「散華法要」も行いますので、ぜひご参列ください。



四〇〇年記念事業

ご支援のお願い

この度の記念事業に際して広く志納金を募ります。ご志納いただいた方には、境内の桜の木を使って製作した夫婦箸を記念品として授与いたします。またご志納金は、堂内や境内の整備など、ご参拝いただくみなさまがより気持ちよく感じる雰囲気を作るために使わせていただきます。恐れ入りますが、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

ご芳志 一口 三千円より

【振込先】

新庄信用金庫 本店 普通〇〇〇一四一〇
(宗) 圓満寺代表役員 山尾順紀

毎月の定例行事

朝の護摩祈禱（参加費なし）

毎月一日 七時

毎月十七日 七時・十時

写経会（参加費 千円）

毎月十七日 十時半・十三時

どちらもお気軽にご参加ください。

これからの行事

◇四月一日から三十一日

花まつり灌仏会（お釈迦さま誕生会）

◇四月二十一日（日）

十一時 花まつり法要

◆五月十二日（日）

八時 護摩祈禱

十一時 稚児行列

十二時 開山四〇〇年慶讃法要

◆五月二十六日（日）青葉まつり

十二時 弘法大師御影供養

◇七月二十七日（土）歓喜天夏祭前夜祭

子ども神輿 流しそうめん大会

二十八日（日）

正午 歓喜天夏祭り華水供祈禱

夜七時半 子供・夢・花火大会

新庄聖天 円満寺

〒996-0001 新庄市五日町五九一四

電話 0233 (22) 0433

Fax (32) 0166

令和六年四月一日発行 発行人山尾瑛紀